

3. 事業2年目の成果と課題

(1) 本事業による生活リズムに関する児童・生徒の変容	
○ 成果	● 課題
<ul style="list-style-type: none"> 「家を出る1時間前起床」の呼びかけにより、登校前の時間にゆとりが出てきた。 広報「絆」に、朝ご飯の大切さについて掲載したり、親子ヘルシークッキング教で簡単に栄養のある朝ご飯を作るという経験を通して、ほぼ全員の児童が朝食をしっかり食べて登校するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に低・中学年においては、親に起こされる児童が過半数を占めるのが現状である。 校内アンケートの結果、一日のテレビの視聴時間については、ほとんど見ないと1～2時間未満を合わせた回答が全体の約65%であった。しかし、少数ではあるものの、3時間以上見ている児童がいるのも現状である。
(2) 「子どもの生活リズム向上」に関する保護者や教職員の意識や取組の変容	
○ 成果	● 課題
<ul style="list-style-type: none"> P T A総会時の事業説明や、広報「絆」・広報「ありあけ」等での啓発活動により、生活リズムに対する意識付けができてきた。 学校からの宿題や健康観察表に、就寝時刻や起床時刻、また就寝時間等を記入する欄を設けてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> P T A総会や講演会、また各種イベントに、全保護者の参加ができていないのが現状であり、校内アンケートの結果を見ても、全家庭での取組ができていない状況も見られる。さらなる啓発活動が課題である。
(3) 「子どもの生活リズム向上」に関する全保護者や地域住民への普及・啓発に関して	
○ 成果	● 課題
<ul style="list-style-type: none"> 海岸清掃や魚食、餅つき大会等、地域住民と触れ合いながらのイベントを実施することで、理解・協力が得られた。また回覧板を利用し、広報「ありあけ」を見ていただくことで、事業に対する理解が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントを行う中で、学校に足を運んで下さる地域の方が多くなってきたが、そのメンバーが固定化してきている感もある。さらに多くの住民への理解・協力を広めていくことが課題である。
(4) その他事業全般	
○ 成果	
<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業以外のことを、体験を通して学び、生き生きとした学校生活を送ることができているように思う。 	
(5) 事業3年次（平成22年度）に重点的に取り組みたい内容	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自主的に早寝早起きに取り組むようにしなければならない。そのためにも、「家を出る1時間前起床」をさらに啓発していきたい。 朝起きた時や地域の方々に会った時あいさつをする、食事の準備や後片付けの手伝いをする、勉強や読書の時はテレビを消して集中してやるといった、当たり前の事を当たり前に行っていない状況も見受けられる。「当たり前の事を当たり前に行えるように！」を合い言葉に、児童・保護者はもちろん、地域へも共通理解を図り、実践していきたい。 	